

令和4年度 杏林大学社会科学学会事業活動報告

運営委員会

本年度本学会は、『杏林社会科学研究』第38巻の発行及び定例研究会の開催を行った。定例研究会における報告者及び題目は次の通りである。

定例研究会

報告者：杏林大学総合政策学部専任講師 Chunmei Huang

題目：「Investigating Lower-Level Learners' L2 Lexical Inferencing Processes
of Unknown Words: A Think-Aloud Study」

開催日：令和4年4月20日（水）

杏林社会科学 研究 第38巻 目次

第1, 2号 (令和5年1月31日) <特集>ウクライナ情勢の諸相

<論 文>

- 日本におけるウクライナ避難民の受入れ 川村 真理
ウクライナ支援をめぐるアメリカ政治の動向 松井 孝太
「プーチンの戦争」とバイデン政権の「インド太平洋」戦略 島村 直幸
APECの今日的意義とロシアへの対応 三浦 秀之

第3, 4号 (令和5年3月31日) 田中信弘教授追悼号

故 田中信弘先生を偲ぶ 杏林大学総合政策学部長 北島 勉

<論 文>

- フランス会計標準化の萌芽
～保険会社に対する会計規制と1939年7月29日のデクレの一般規定～ 内藤 高雄
DX 研究の方向性に関する一考察 糟谷 崇
日本コロンビアにおけるアニメソング・レコード事業の展開
—1960年代～70年代における木村英俊の企業家活動を中心に— 長谷部弘道
日本国内でのショッピングセンターの
市場拡大の変遷：1950年～2021年 加藤 拓
非財務情報の信頼性と将来情報 高田 京子
2022年中間選挙とアメリカの政治の分断 島村 直幸
宗教法人の解散とその基準 藤原 究

<研究ノート>

- ポスト・ケインズ派のマクロ分配理論に関するノート 西 孝

* * *

田中信弘教授 略歴及び主要研究業績